

この一点

— どうしても伝えたい
作品の力と魅力

- 第1回 2025年5月24日(土)
高松次郎《No.273(影)》
菊地武彦
- 第2回 2025年6月21日(土)
中川李枝子・作、山脇百合子・絵
『ぐりとぐらのえんそく』
佐賀一郎
- 第3回 2025年10月4日(土)
葛飾北斎
《諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの滝》
古谷博子
- 第4回 2026年1月17日(土)
橋本平八《石に就て》
水上嘉久
- 第5回 2026年3月21日(土)
尾形光琳《紅白梅図屏風》
千々岩修

連続講座
「世界の美術館」
同日開催

なぜ、その作品が
その人にとって

「この一点」なのか。

時間 15時30分～16時40分

会場 多摩美術大学 八王子キャンパス

受講料 14000円(全5回)

※1回ごとの受講はできません。

定員 80名

締切 4月24日(木) 必着

お申し込み方法、お問い合わせ先は、右側を
ご覧ください。

この一点

— どうしても伝えたい
作品の力と魅力

有名な作品、聞いたこともない作品、
知る人ぞ知る作品…。

どのような作品が話されるのでしょうか。

その作品が、数多くある作品から
選ばれた理由があるはずです。

なぜ、その作品がその人にとって
「この一点」なのか、
語り手の眼差しから作品の魅力を
伝えていきます。

第1回 高松次郎《No.273 (影)》

— 絵画の神話的な起源を探る

人は絵画に何を求めてきたのでしょうか。高松次郎の影の絵を手がかりに、さまざまなアプローチで絵画の原点に迫ります。

菊地武彦 画家(本学教授)

第2回 中川李枝子・作、山脇百合子・絵 『ぐりとぐらのえんそく』

— 想像を超えた想像力

遠足に出かけたぐりとぐらは、お昼前の体操をきっかけに小さな冒険に出かけます。私たち読者も一緒です。

佐賀一郎 デザイン研究者(本学准教授)

第3回 葛飾北斎《諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの滝》

— 版画の可能性を探る

全8枚で構成された「諸国瀧廻り」の1点で、各地の名所絵というよりも多様な水のかたちを捉えて表現されています。

古谷博子 版画家(本学教授)

第4回 橋本平八《石に就て》

— 円空仏との邂逅と必然

夭折作家、橋本平八。その晩年、まだ世に知られぬ円空仏との邂逅を果たす。それは偶然か必然か? 彫刻家の視点から考察します。

水上嘉久 彫刻家(本学教授)

第5回 尾形光琳《紅白梅図屏風》

— 「金より銀」デザイナー光琳の創意

紅白梅図屏風の隠された実験と遊び心の中に垣間見る光琳の素顔とは。

千々岩修 画家(本学教授)

◎講師の肩書き等は2025年1月1日現在。

開講日 5月24日(土)～3月21日(土)の全5回

時間 15時30分～16時40分

会場 多摩美術大学 八王子キャンパス

受講料 14,000円
※1回ごとの受講はできません。

定員 80名

締切 4月24日(木) 必着
※締め切り後も定員まで受け付けます。
お問い合わせください。

◎お申し込み方法、お問い合わせ先は、
右側をご覧ください。